

◆ *Furusato Obara Club*

Take Free [0円]

おはらのじかん

— 第8号 —
2016 Summer

おはらの作家さん大集合

巻頭
特集

小原の作家さん
故加納俊治氏宅を訪ねて

[おかえりなさい] 両親の暮らす小原にターン

[小原のパワースポット]

[マンガイカくんキンちゃんの小原日記]

[小原いろいろ情報]



小原人集まれ! 「おばちゅう卒」
www.facebook.com/obachuu

おばちゅう
以外でもOK

頭集
巻特

小原の作家さん

故加納俊治氏宅を訪ねて

7月半ばの、梅雨明けも近い休日、故加納俊治氏のご自宅を訪れました。俊治さんは、惜しくも2015年9月に86才で他界されましたが、藤井達吉翁の直弟子の一人で、日本の和紙工芸分野の第一人者でした。妻の啓子さんと娘の登茂美さんから、この小原の地で創作を続けられた故人の原点とその継続を支えた信念についてうかがいました。



まず出迎えて下さったのは娘さんの加納登茂美さん。ご自身も和紙工芸作家として幅広く活躍されています。案内されたのは敷地内にある工房に併設されたギャラリーの二棟。庭には様々な草木が絶妙な配置で茂り、季節を彩っています。聞けば、すべてお父様の俊治さんが選ばれ育てられてきたとのこと。

その中の、ホトトギスが揺れる一角に、ひかえめに佇む歌碑がありました。「鶯乃声をききつる年ごとに花ざか李なりおばら山里」と詠まれています。これは小原農村美術館完成の折に、藤井達吉翁が詠んだ歌に対する、俊治さんの返歌との事でした。

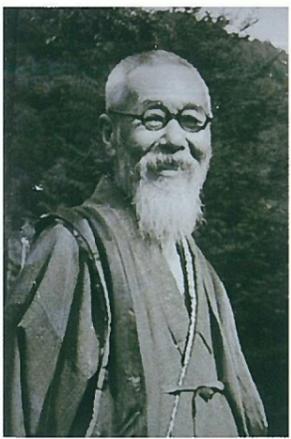
少し歩を進めると、先ほどの歌碑よりも二まわりほど大きな自然石があり、

「小原野に春は来にけり鶯のおきよおきよと声をかぎりに」と詠まれています。先の俊治さんの返歌を生んだ、藤井達吉翁の歌が刻ま

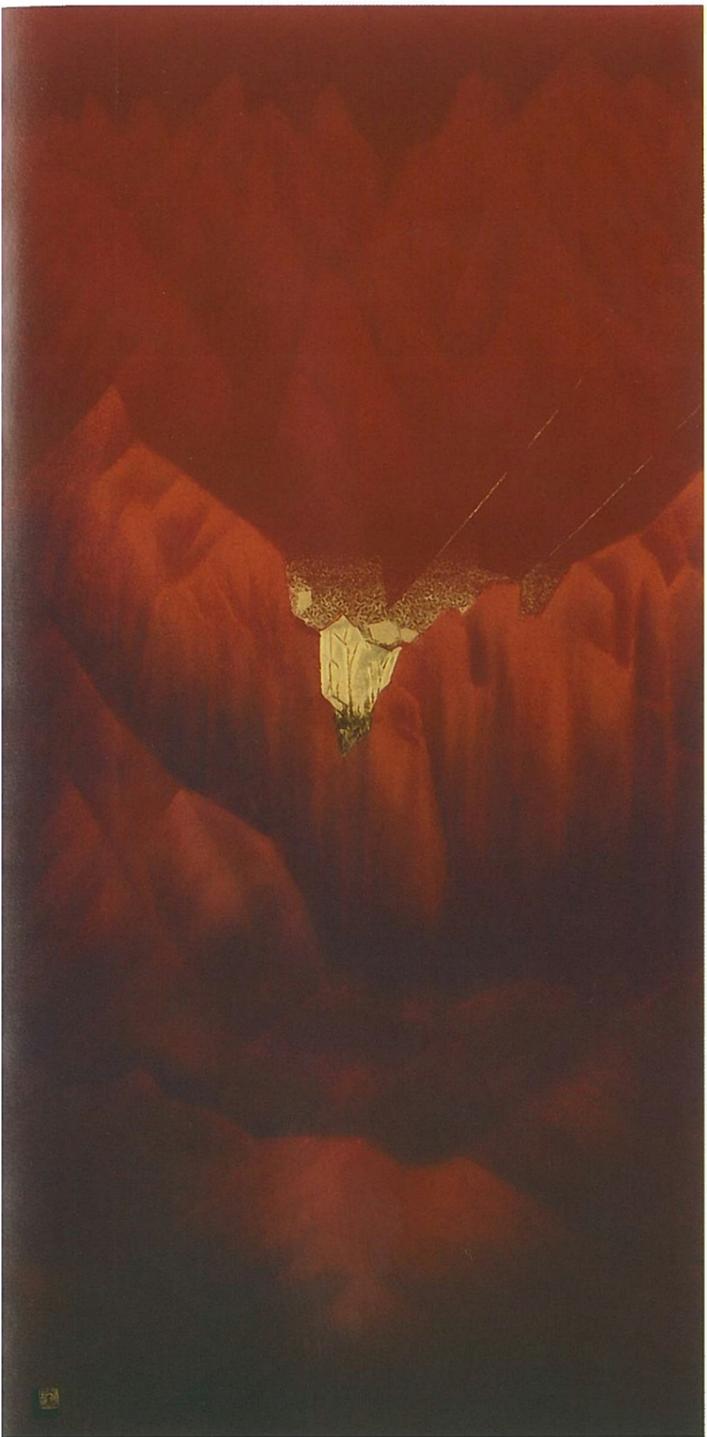
れていました。この歌碑は、庭からギャラリーに入る障子を

開くと、ギャラリー空間の正面に位置し、悠然と佇んでいます。この二対の歌碑は、藤井達吉翁と俊治さんとの深い絆を象徴するものでした。

ほどなく、ご自身も和紙工芸作家である奥様の啓子さんも同席され、俊治さんの若い頃



秋光 [213×115 額装] 2013年



お話を伺うことに。

俊治さんは、十代の頃から思想哲学・宗教に関心を持ち、東京で語学も学びましたが、戦後は故郷で自分の歩む道を求め、ある牧師の元で聖書を学んでいました。その頃、のちの人生の師となる藤井達吉翁に出会い、衝撃的な感銘を受け、時には寝起きを共にし、日々、あらゆる分野で学びを受けられたとのこと。

その学びは深く広く、礼儀作法・花鳥風月に対する心の寄せ方・観察者としての鋭い視点・食文化や人に対する細やかな心配りまで、人として生きてゆく上で最も大切な根幹と、創作者表現者としての在り方と技術を磨かれたそうです。

続いて、漆芸家の高橋節郎先生との出会いのお話。高橋節郎先生は俊治さんの創作活動における客観的な批評者でしたが、さらに、子どもにない高橋夫妻から、息子のように可愛がられ、互いに信頼し合い、尊敬し合う関係と

なりました。

そしてもう一人、親日家のイタリア人、フオス・コマライーニ氏との出会い。マライーニ氏は、人類学者・東洋学者・写真家・登山家でもあります。

第二次世界大戦前から、アイヌ民族の研究のため、たびたび訪日していましたが、戦況の変化によりマライーニ氏とその家族は、奥様の実家である広済寺(東広瀬町)を逗留地として、時期を過ごしました。その時のご縁が現在まで続いていて、人類学者として世界中の少数民族に心を寄せる高潔な彼の生き方は、俊治さんに大きな影響を与えたそうです。

このお三方は「三人の父」とも言える存在だったとのこと。それぞれに理想を暖め、実践し、人と自然に向い合う。そうした出会いが俊治さんの人間形成の二翼を担い、彼が目指す境地への姿勢を培いました。

俊治さんは、お茶を飲む時、手にした器を通



左:娘の登茂美さん 右:妻の啓子さん

して作者を感じ、語り合う事ができると言い、そうした時間を大切にされてきたそうです。

それは、陶芸に限らず、小原独自の産業を興すことの大切さを藤井達吉翁に教えられた、俊治さんの修業時代に根ざす実感と言えるのでしょうか。

晩年には折にふれ「藤井達吉先生の教えを皆で検証し、受け止め、実践し、次の世代へ繋げて欲しい」とよく言われていたそうです。

俊治さんが人生をかけて学び大切にされてきたことは、現在も決して古くなく、時代を越えて私達にも共有できる貴重な財産であり課題だと思いました。

快く取材に応じて頂いたご家族の皆様、ありがとうございました。

M.Y

【略歴】日展参与/日本現代工芸美術家協会参事 銀座和光で個展開催/愛知県芸術文化選賞/豊田文化賞/夫婦二人展(豊田市美術館)/海外研修二三次/中日文化賞/豊田市特別功労賞

文化香る小原の作家さん大集合
小原の作家さん

小原和紙工芸は、総合芸術家 藤井達吉翁が、80年ほど前に丁装に使う和紙を小原に求めたことが縁となり生まれました。その教えを元に、小原の文化・芸術は発展を遂げました。そんな風土の育む、小原地区に住む現在のいろいろな作家さんたちをご紹介します。

※作家さんは小原在住の方を基準に掲載のお願いしました。作家さんの都合や、連絡が取れない、存じあげなかったなど、掲載できなかった作家さんもございます。ご了承ください。

[漆芸家] 榎坂工房 安藤 和久



1965 関西大学経済学部卒業
2009 文部科学大臣賞受賞 (明治神宮・漆の美展)
2013 豊田芸術選奨受賞
現在 日本漆工協会事業推進委員漆工学会会員 新匠工芸会員
小原大倉町 TEL:0565-65-3309

[漆芸家] 榎平工房 安藤 源一郎



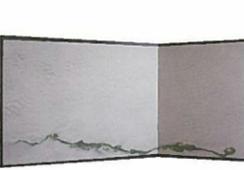
2014 東海伝統工芸展「名古屋市長賞」受賞
2015 日本伝統工芸展「日本工芸会新人賞」受賞
紙胎陶器青嵐盛器
2016 東海伝統工芸展「岐阜県教育委員会賞」受賞
北條平町 TEL:0565-65-2450

[漆芸家] 榎平工房 安藤 則義



2011 日本伝統工芸会奨励賞「受賞」
2014 日本伝統工芸展「文化庁賞」受賞
紙胎草花文合子
現在(公社)日本工芸会理事 東海支部幹事長 日本文化財漆協会理事
北條平町 TEL:0565-65-2450

[和紙作家] 工房 野草子 安藤 真人



湖うみ [60×176 風炉先屏風]
小原大倉町 TEL:0565-65-2086

[和紙作家] 春日井範之工房 春日井 範之



臥龍の桜 [90×180 額装]
1970多摩美術大学日本画(加山又造教室)卒業後和紙工芸を始める
1974日展入選(12回) 全友推挙 1989名古屋三越にて個展(18回)
永太郎町 TEL:0565-65-3386

[和紙作家] 春日井和紙工房 春日井 保裕



日展入選5回
日本新工芸展入選8回
光風会展入選8回 (光風奨励賞受賞)
中部就展入選4回 (奨励賞受賞2回)
遷(額装)
上仁木町 TEL:0565-65-3061

[アロマ作家] 濱辺 あい



アロマセラピーのワークショップをメインに活動しているアロマ作家。夏の時期などは虫除けスプレーなどのワークショップも開催。

小原大倉町
f 濱辺 あい

[彫刻・現代アート] 與語 政雄



1950静岡県島田市生まれ
1980土岐市陶磁器試験場研修課程修了
韓国・インド・タイなどにて古代陶法修習
1984猿投古窯研究のため愛知県豊田市に築窯
1995猿投青窯発表
2003〜4中国福建省、タイにて釉薬調整技術指導
2008「猿投古窯ー日本陶磁の源流」随山閣より出版

大坂町
www.2odn.ne.jp/sanage

いろいろな素材を使って造形作品を制作しています。
北篠平町 f Masao Yogo

[陶芸家] 猿投窯 大石 訓義



1949年京都市生まれ
同志社大学文学部卒
個展：東京・名古屋・京都で合計10数回
グループ展：多数
以前はアクリル画でしたが、今は、コピックによるドローイング作品が中心。

大平町 お絵描き教室アトリエwa atlieawajimdo.com
作品 icanology.sakura.ne.jp f 空絵人calamar

[陶芸家] アトリエwa 山本 耕一



1961年静岡県生まれ
1997年〜主に東京・名古屋にて開催
グループ展：1998年〜東京・愛知・京都・山梨などにて多数
パステル・顔料・墨を画材の中心とした平面作品
山本耕一と共に、お絵描き教室アトリエwaを主催。

大平町
お絵描き教室アトリエwa atlieawajimdo.com
TEL:0565-65-3610

[和紙作家] 山内 章平



2010卒業制作展 混沌賞受賞
2010第42回日展初入選
2012第22回工芸美術日工会展 日工会賞 受賞
2013豊田市文化振興財団大会 特別表彰文化新人賞受賞
2013第23回工芸美術日工会展奨励賞 受賞

せざし[1800×1000 額装]
西萩平町
TEL:0565-65-1188

[和紙作家] 橋本 昇三



2001日工会展にて
文部科学大臣賞
2005愛知県芸術文化選奨文化賞

ルクソールの夜明[188×93 額装]
上仁木町
TEL:0565-65-2257

[和紙作家] 山内一生工房 加藤 英治



1988山内一生先生に師事
2002日展初入選
2008日展東海展中日賞受賞

澄明[175×95 額装]
千洗町
TEL:0565-65-2908

[動物造形作家] ATELIER・OWL



東京のディベアのイベント中心に出演
高島屋、伊勢丹などから作品を委託
授賞歴
第19回日本ディベアコンテストカテゴリーD銀賞
第20回日本ディベアコンテストグランプリ受賞

大平町
TEL:090-5107-2735

[グラフィックデザイナー] 鈴木 孝典



1973愛知県小原村生まれ
1995東京デザイナー学院古巣校卒業
単身 上京。数社のデザインプロダクションを経て、2006スズキ広島店として独立。ロードバンドとともに小原へリターン。

小原町 TEL:090-9125-2979 f 鈴木孝典

[陶芸家] 小原窯 春日井 鋼介



1952小原和紙工芸家 春日井正義の次男として生まれる
1976大阪芸術大学工芸科卒業
1980年独立
小原地内にて陶芸活動をはじめる。日展6回入選/日本新工芸展4回入選/光風会展4回入選/朝日陶芸展5回入選/中日国際陶芸展4回入選/豊田市民展市長賞/徳展・親子展回数

永太郎町 TEL:0565-65-3200

[陶芸家] アトリエwa 山本 雅枝



1961年静岡県生まれ
個展：1997年〜主に東京・名古屋にて開催
グループ展：1998年〜東京・愛知・京都・山梨などにて多数
パステル・顔料・墨を画材の中心とした平面作品
山本耕一と共に、お絵描き教室アトリエwaを主催。

大平町
お絵描き教室アトリエwa atlieawajimdo.com
TEL:0565-65-3610

[和紙作家] 重和工房 山田 重和



日展東海展中日賞受賞
日工会展会長賞受賞
光風会展光風奨励賞受賞
関西総合美術展読売新聞社賞受賞
豊田市民展市長賞受賞

遊花[180×95 額装]
大ヶ蔵連町
TEL:0565-65-3217

[和紙作家] 小次郎工房 福岡 小次郎



日展入選1回
現代工芸展入選3回
光風会展入選6回
新日本工芸展入選4回
中部読売展

花菖蒲 [154×142 屏風]
大ヶ蔵連町
TEL:0565-65-3331

[和紙作家] 加納清司和紙工房 加納 清司



1966日展入選(以後18回)
1986法務大臣表彰
1986日本現代工芸美術展審査員
1992中部清風会を結成
現在に至る

ふる里讃歌[120号 額装]
下仁木町 TEL:0565-65-3048

[彫金作家] OpalLios 景山 真梨



OpalLiosとはオパールを七色の輝きのように世界に一つしかない彫金を心がけジュエリーを制作しています。メキシコで彫金修行後は豊田市小原に工房を構え制作活動を行っています。

前洞町 TEL:080-6676-6237 marioipallios

[グラフィックデザイナー/イラストレーター] 長嶋 敏明



1973愛知県小原村生まれ
1995東京デザイナー学院古巣校卒業
単身 上京。数社のデザインプロダクションを経て、2006スズキ広島店として独立。ロードバンドとともに小原へリターン。

小原町 TEL:090-9125-2979 f 鈴木孝典

[陶芸家] クマツル工房 木塚 博長



1952小原和紙工芸家 春日井正義の次男として生まれる
1976大阪芸術大学工芸科卒業
1980年独立
小原地内にて陶芸活動をはじめる。日展6回入選/日本新工芸展4回入選/光風会展4回入選/朝日陶芸展5回入選/中日国際陶芸展4回入選/豊田市民展市長賞/徳展・親子展回数

永太郎町 TEL:0565-65-3200

[日本画家] 井木 紫人



かつて伊勢若沖の作品を見たときに強烈に感じたモノがありました。若沖のように道と共に暮らすことで生き物の魂を感じ、それを描く、ランチュウ(金魚)と共に暮らし観察し、そこから見えるモノを描く。自宅では春にランチュウの卵を探り稚魚から育てて見ます。それを毎年繰り返しています。金魚の生体を知らずして花鳥画を描けないと思っています。単純に美しく綺麗に描く絵では真実が見えないと感じます。それが自分の世界感です。

小原大倉町
TEL:0565-65-2960

[和紙作家] 余語 志津子



1989日本現代工芸美術展
中日賞
日本現代工芸展
13回連続入選

水辺[額装]
下仁木町
TEL:0565-65-3590

[和紙作家] 福岡 洋介



2002年に全国和紙画展アート部門に入選。以後日工会展や日展での入選を繰り返す。2005年には第10回波光会展入選。様々な行楽施設の装飾を担当し、世界ペーパーアート展の審査員をつとめるなど、若手と紙工芸家のホープとして精力的に活動。

大ヶ蔵連町
TEL:0565-65-3331

[和紙作家] 加納 啓子



日府展 受賞(11回)
日府展 審査員
夫婦二人展
(豊田市美術館)
安曇野高橋節郎
記念美術展友の会
会員出品
1992中部清風会を結成
現在に至る

下仁木町
TEL:0565-65-3036

[ミトン作家] handmade mittens SUNAO



風景、草花、感情、物語などを表現したミトンをひとつひとつ手で編んでいます。冬のおしゃれを楽しむおとことこのミトンです。2016年は名古屋と鎌倉で展示会、オーダー会を予定しています。

小原町 sunaomittens.petit.cc shiotasunao

[アドプランナー/カメラマン] 山内 克豊



1957年小原生まれ 愛知大学卒業後1998年独立
旅行関係の広告を主に制作。近年、ネットのライブ配信事業を追加。カメラ(スチール・ビデオ)

小原東郷町 f Katsutoyo Yamanoi

[陶芸家] 成田 実



小原村の頃より移住、作陶活動に励んでいます。1969瀬戸の陶芸家河本五郎氏に強く心をうたわれ、運良く入門をしました。先生のもと9年間修行しました。その後、藤本鷹弥氏の紹介で小原を知り、こころざし、現在に致ります。

小原北町
TEL:0565-65-2249

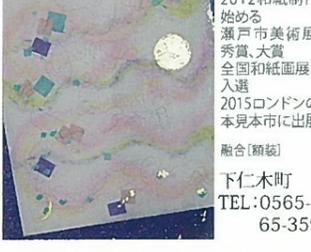
[日本画家] 加知 満



1949愛知県豊田市生まれ
京都造形芸術大学卒/新美術協
会 受賞2回/石田財団芸術奨励賞受賞/中日展東海ラジオ賞・佳作賞受賞/絵の現在選抜展銀賞受賞/個展7回/現在新美術協会理事・審査員

大平町 TEL:0565-65-2761
kachiman548.jimdo.com

[和紙作家] 余語工房 横目 芽久美



2012和紙制作を始める
瀬戸市美術展 優秀賞、大賞
全国和紙画展3回入選
2015ロンドンの日本見本市に出展

融合[額装]
下仁木町
TEL:0565-65-3590

[和紙作家] 二村 純生



1990名古屋造形芸術短期大学
インターメディア助手勤務
1991日展評議員山内一生先生に師事
2005日展初入選(7回入選)
2010碧南海浜水族館に作品「漂う」寄付
2012第一学習社古典教科書の表紙に作品掲載
2015「メイド・イン・愛知」工芸の架け橋展
古代の淵[170×90 額装]
小原町
TEL:0565-65-3858

[和紙作家] かのうともみひさし



2000年ハーパー一博でのワークショップより活動開始。加納ともみ、ひさし2人名前からユニット名「かのうともみひさし」とする。

小原町
TEL:0565-65-3036

[クラフト(雑貨)作家] chacoli(チャコリ)



ヨガインストラクターをしながら、今年3月から少しずつ可愛いクラフトを制作
エプロン、アクリルたわし、ネコ型ティッシュケース、カードケースなど(めんべや和小物追加予定)

下仁木町 TEL:090-4165-1090
chacoli.wix.com/chacoli f ひだまりの家chacoli(チャコリ)及梅乃原

[写真家] 水野 行司



近年、管理されない山林・田畑の増加が目立つ。減少しつつある里山の自然風景を撮影している。

小原北町 TEL:0565-65-3271

[陶芸家] 道慈窯 藤本 鷹弥



1951豊田市生まれ
1970寺田美山氏に師事
1972朝日陶芸展入選
1973中日国際陶芸展入選、道慈窯開窯
1974インド・ネパールへ游学
1990個展(名古屋三越星ヶ丘店)以降各地にて個展・グループ展

大洞町 TEL:0565-65-3089

[日本画家] 土屋 雅裕



第36回彩画会展 愛知県美術館にて会長として現在に至る
第36回三裕会展 豊田市民文化会館主幸として現在に至る
豊田美術連盟 常任理事
日本画教室 多数開催中
個展33回開催
画廊「美術村」H4年開設(グループ展無料開放中)
白駒亭
西細田町
TEL:0565-65-2008

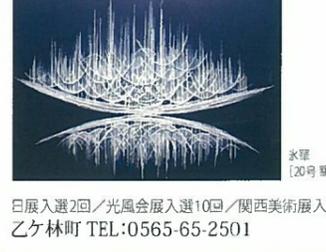
[総合芸術作家] unit-NAGI



2007年
日本・インドネシア友好大祭(インドネシア・バリ島)
2009〜2011年
出会いの空間(香川県・喜島島)
2014年
現代のヘウケモノ展(バリ日本文化会館・バリ)
日本スイス 国交樹立記念展
OBARA WASHI(スイス・バーゼル)
掲載の作品は Tsushikishi No.1

永太郎町 郷下
www.nagi.cc

[和紙作家] 柳瀬紙工房 柳瀬 博隆



日展入選2回/光風会展入選10回/関西美術展入選
乙ケ林町 TEL:0565-65-2501

[和紙作家] 和紙鈴木峰雄工房 鈴木 峰雄



日展入選29回
日展東海展
中日賞受賞/
日本現代工芸美術展入選/
現代工芸会員賞・審査員

群[150×138 額装]
小原町 TEL:0565-65-2470

[和紙グループ] 小原ペーパーアート・ファンクラブ



市民活動レベルで、小原和紙とアート、小原地域を普及活動しています。窓ガラスに和紙をペタペタ飾りつけるガラスアート、あなたもいっしょに飾りましょう。簡単な和紙小物づくりの出張講座承ります。

小原町 TEL:090-5631-0286(奥村紀美)
「小原ペーパーアート・ファンクラブ」ウェブで検索

[ミュージシャン] kaname



18歳のころから音楽を始め、cafeやclub、野外ライブなど沢山の場所で歌わせていただきました。今は愛知県小原を拠点に活動しています。現在2児の母になり、子育てをしながら合間を見つけてはギターを弾いたり歌を作ったりして、日々自分の音楽を模索中。美味しいものを食べる事、自然との遊びが大好きです。

千洗町 kaname1209 f 要 胡桃澤

[陶芸家] 與語 小津恵



身近な植物をモチーフに、染付のうつわを制作しています。

北篠平町 f 與語 小津恵

[陶芸家] 鵜飼 青木 鵬磨



1972光風会展入選
1973日展入選
中日国際陶芸展入選
日本現代工芸美術展入選

陶芸教室・茶道教室やっています。
市場町 TEL:090-1415-3413

[油絵画家] 鈴木 和廣



新美術協会入選
美術賞、佳作賞、準会員佳作賞、会員佳作賞、中日賞、東海テレビ賞/展期会(中部新美術協会)

展「展期会賞」/〜豊田市民展・豊田美術展入選/「創造する仲間展」第1回より出版
上仁木町 TEL:0565-65-3591

[和紙作家] 山内一生工房 山内 一生



1947藤井達吉先生に師事。紙漉を始める
日展特選、北斗賞受賞
愛知県芸術文化選奨受賞
皇太子殿下、同妃殿下行啓の栄に浴す
園遊会招待の栄に浴す
愛知県文化功労賞受賞
旭日小綬章受章

豊岡[128×92 額装]
西萩平町
TEL:0565-65-2112

[和紙作家] 田中真和紙工房 李白苑 田中 真



無所属

春宵[160×100 屏風]
李町
TEL:0565-65-2427

※ご本人または団体からいただいたコメントを元に掲載しています。



秋光 [213×115]



親の暮らす小原にイターン娘が旦那さんを連れて「イターン?」。普通は「イターン」というが…。下仁木に「梅乃屋」さんというアンテナをあげたのが15年前。すでに成人していた娘さんは街で暮らし、両親だけが小原へ…ということで、親元へは「お帰りなさい」だが娘さん夫婦は「イターンになる」という話。

旦那さんの窪田篤(アツシ)さんは浜松の米屋さんで20年務め、米のコンテストの審査員もしている米のエキスパート。そして浜松では畑で野菜作りもしていたという農業青年。「小原の米はどうですか?」と聞いたら「小粒だけどしつこくなく食べやすいレベルの高い米」といい評価だった。

奥さんの窪田ルミ子さんが浜松のヨガスタジオでインストラクターをしていた時知り会い結婚。出会いのキーワードは「ベジヨガ」。自然農法の畑をしていて彼女が「野菜を作るなら両親の暮らす小原へ行こう」と半年前に15年振りに両親との同居と相成った。篤さんは小原にきた直後から畑探しに奔走。今では条件の違う畑を3つ耕し、炎天下の中、育つて来た野菜作りに飛び回っている。「この人、本当に農業やる気だ」。小原は過ごしやすくて空気がいい。時間を忘れてしまうという。ルミ子さんはマイナスイオンいっぱい的小原でヨガ教室を開く準備中。「親子ヨガ」をやりたい…と夢は広がる。

M.T



おかえりなさいオバラっ子
両親の暮らす小原にイターン

昔、平畑町に就業の後バクチに興ずる人々がいまして。彼らは賭場に通う前に下井戸の水を飲んで行く。「運」がつくといい、負け知らずだったそうだ。そんなうわさが広がり井戸の水を飲んで「運」を拾ったと言われています。



小原のパワースポット
キャンブル好きには嬉しい!
宝を呼ぶお水
お宝運水

- おぼら地区の物件を探すなら!
豊田市 空き家バンク 検索
www.city.toyota.aichi.jp/akiya/
- おぼちゅう以外人もOK!
小原の情報ページ 『おぼちゅう卒』是非登録してね!
www.facebook.com/obachuu
- おぼらイベント
8月7日 和紙良いフェスタ
8月15日 小原夏まつり
- 小原恒例の夏まつり、花火大会では200発の花火が打ち上げられ、目の前で見られるため迫力満点。
- 8月21日 ガサガサイベント
子どもたちと矢作川でガサガサ遊ぼう。
- 8月27日 小原防災フェスタ
- 9月25日 小原スポーツフェスタ
- 10月23日 小原文化まつり



STAFF 小原白宇感 編集後記

小原は作家さんが多いと聞くが実際は?と今号は始まりました。心良く掲載をいただいた作家の方々、ありがとうございます。紙面の関係で文字が小さかったりしますがここから交流や新しい何かが生まれると嬉しいです。

今回の新しい出会いは目も心も洗われました。毎日の暮らしの中のささやかながら愛おしく大切なもの、人との縁の中に築かれる信頼と絆。自然体で力まず、曇りの無い心のままにごく普通に実践されている皆さんでした。

イメージって大切な…と思います。いいイメージならなおさら、人から小原って…。1位四季桜、2位和紙、3番目は作家さんとかアーティストがたくさん住んでる…なんです。自然と人の表現、街と田舎の入り合う場所～それも「里山」ならではだと思えます。

お店に入ると、そこに足音もなく現れたのは沢山のニャーの声。初めての梅乃屋さんで受けた歓迎にしばし固まる私。はじめは戸惑う指も気まぐれな態度に連射モードへ。レンズ越しのツンデレに出会った頃の君を思い出す。

T.S(今号編集長) M.Y M.T H.Y